

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 島根県 】

学校名【 大田市立久屋小学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③・Ⅳ・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	3・4年生児童15名、5年生児童1名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動 <small>次の5つの中から選択しOをつけてください【複数選択可】</small></p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> 元パラリンピアンの方藤田さんの話を聞いて、パラリンピックへや障がい者スポーツへの理解を深める。 ボッチャ体験を通じて、障がい者スポーツへの関心を高めるとともに、友だちと協力してボッチャをする。
5 取組内容	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 「I'm POSSIBLE」を活用した授業 <p>講演会・ボッチャ体験</p> <ul style="list-style-type: none"> パラリンピックについて チャレンジド・スポーツとは ボッチャ体験 質問 <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤田さんにお礼の手紙



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元パラリンピアンである藤田さんの話を聞き、パラリンピックについての理解を深めることができた。パラリンピックの競技の種類など、講演を聞く中で、自分たちが知っているスポーツもあれば、初めて聞くようなスポーツがあることを知り、驚いていた。 ・「神様から与えられた試練を乗り越える」という「チャレンジド・スポーツ」の意味を聞き、障がいの有無に関わらず、自分に与えられた試練をどのように乗り越えていくかを考えていくことが大切ということを理解することができた。 ・藤田さんの競技に対する姿勢から、何事も最後まであきらめないことの大切さを実感することができた。普段から、簡単にあきらめることがないように児童に伝えているが、実際に困難を乗り越えてパラリンピックに出場された方の話を聞いたことは、より説得力のある話であった。 ・ボッチャ体験では、味方や相手チーム関係なく、一人一人のプレーに「ナイス」というほめ言葉や、励ましの言葉が次々と出てきた。また、普段の体育の授業などでは、活躍する場面が少ない児童が活躍をするなど、みんなに活躍のチャンスがあるというボッチャの良さを実感することができた。 <p>【児童の感想より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗したらすぐにあきらめていたけど、すぐあきらめるんじゃなくて、なんで失敗したのかを考えたりして、自分にできないところを直していきたい。 ・今日分かったことは、あきらめないこと。悔いの残らないようにすること。柔道の試合ですぐにあきらめていて、その時心がモヤモヤした。ボッチャでみんなが「すごい」「ナイス」と言っていて盛り上がった。 ・最初は障がいのある人は、かわいそうだなと思っていたけど、藤田さんを見て、車いすなどの道具や環境が変われば、同じように不自由なく生活することができると思った。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の取組は、3年生の国語の学習「パラリンピックが目指すもの」を受け、その発展学習と関連付けて行った。ただ、本学級が3・4年生の複式学級ということで、3・4年生合同でボッチャ体験を行った。互いに思いやる姿が見られた。 ・本校在籍の車いすを使用している特別支援学級児童もボッチャ体験に参加した。講師である藤田さんに積極的に関わったことで、勇気づけられていた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ということもあり、全校での実施ではなく、一部の学年での取組となった。オリパラ教育推進校であるので、可能であれば、全校で講演会・ボッチャ体験を行うなどの、日程調整ができると良かった。 ・本学校には、特別支援学級に在籍する児童も複数いる。藤田さんの話の中にもあったが、〇〇だからできないという視点ではなく、どうすればできるようになるのかという視点で物事を考えられる力を育成していくことで、共生社会を目指す子どもを育てていきたい。また、理解教育を進めていく必要がある。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体として、理解教育を進めていく。 ・ボッチャグッズを活用し、パラスポーツへの関心を高める。

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 島根県 】

学校名【 大田市立久屋小学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童48名 保護者3名 地域の方5名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 次の5つの中から選択し○をつけてください【複数選択可】 ① 教科名 () ② 行事名 (オリンピアン鹿島さんに学ぼう) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・講演内容からスポーツを通して感じたことや目標を持つことの大切さに触れ、今後の生活に生かす。 ・オリンピックを身近に感じ、「スポーツをする・見る・支える・知る」活動につなげる。
5 取組内容	事前学習 ・講師の鹿島さんについて知る（アテネ五輪の映像など） 講演会・模範演技 ・ケガや挫折からどう乗り越えてきたのか ・目標を立てることの大切さ ・代表児童による模範演技（鹿島さんによる指導・助言含む） ・質問コーナー   



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピックのメダリストの話を直接聞くことができ、児童はスポーツのすばらしさを感じることができた。 • 日常生活の中でよく思ってしまう「まあいいや」「またあとで」という思い。鹿島さんも同じように考えてしまっていた時期があったようで、児童も自分たちと同じようなことを考えているんだと理解していた。しかし、そこから、「あとでやろう」では、やらなくなってしまうという考えに至り、先送りにしないようにすることが大切と分かった。 • 大舞台を経験されてきた鹿島さん。その中で、“緊張”について話があった。緊張という言葉を知ると、子どもたちの中でマイナスなイメージがあったが、“いい緊張”と“悪い緊張”があるという話があり、児童はよく耳を傾けていた。“いい緊張”を味方につけるためにも、根拠のない自信ではなく、焦らず、自分のペースで基本的なことを反復練習することが大切だと知った。 • 全校児童の前で模範演技を行ったことは、演技を行った児童にとってとても良い経験となった。鹿島さんから直接、上手な点をほめていただいたり、改善点を指摘していただいたりして、とても自信となった。また、演技を見ていた児童にとっても、憧れをもつことができていた。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 全校児童だけでなく、保護者や地域住民、その他関係機関にも声をかけ、参観してもらった。 • 今年度、コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、多くの行事が中止となった。毎年10月に行われていた大田市体操競技会も中止となったため、そこに向けての練習会も中止となった。しかし、今回の鹿島さんの講演に合わせ、体操競技会の規定演技を代表児童による模範演技として取り入れた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍ということもあり、本校児童以外の参加者が少なかった。せっかくの機会なので、より多くの人に参加してもらえるような工夫が必要であった。 • 全校児童の参加となったが、各学年の実態に合わせ、事前・事後を計画的に行い、教育課程にどのように位置づけていくのかを年度当初に確認しておくことが必要であった。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度の取組をきっかけに、目標を設定し、その目標達成に向けて、日々努力していくことを意識づけていきたい。(キャリア・パスポートの活用など) • 東京オリンピック・パラリンピックへの機運を高め、運動に親しむ子どもを育てていきたい。